

授業科目名	刑法概論	必修	開講年次	1	単位数	2
科目区分	専門科目／教科に関する科目(社会・公民)					
サブタイトル	刑事法とは何か？		担当者	百合草 浩治		
講義概要	<p>【概要】 刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法の各講義では、それぞれの法典の条文の個別・具体的な解釈論が中心となる。本講義では、それらの前提となる刑事法あるいは刑事法学上の基本的な知識・情報を提供する。</p> <p>【到達目標】 刑事法あるいは刑事法学上の基本的な知識・情報を頭の中に入れてとともに、自ら学び、自ら考える姿勢を身につけることを目標としたい。</p>					
履修条件	特になし。					
教科書・参考書	<p>【教科書】井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第4版〕』(2010年、有斐閣)</p> <p>【参考書】佐久間修・高橋則夫・宇藤崇『いちばんやさしい刑事法入門〔第2版〕』(2007年、有斐閣)</p> <p>浅田和茂・内田博文・上田寛・松宮孝明『現代刑法入門〔第2版補訂〕』(2008年、有斐閣)</p> <p>伊東研祐(編)『はじめての刑法』(2004年、成文堂)</p>					
授業回数	内容					
1	イントロダクション					
2	刑事手続の全体像					
3	犯罪とその原因についての仮説					
4	刑罰の存在理由・刑法の目的					
5	刑法とその解釈					
6	「犯罪論」の基礎①					
7	「犯罪論」の基礎②					
8	「犯罪論」の基礎③					
9	刑法各論のあらまし①					
10	刑法各論のあらまし②					
11	刑事裁判のしくみ①					
12	刑事裁判のしくみ②					
13	日本の刑事司法の特色					
14	犯罪者の処遇					
15	まとめ					
評価方法	平常点(出席点・小テスト等の合計)					
評価基準	<p>原則として、80パーセント以上の回に出席していることを単位認定の前提とする。</p> <p>上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。</p>					
その他	<p>教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。なお、持参しない者は、「出席」とは見做さない。</p> <p>授業は、講義と質疑応答を組合せた形で行う。</p> <p>【受講上の注意】</p> <p>遅刻は原則として認めない。私語・携帯電話の使用は禁止する。</p> <p>正当な理由のない、途中退室後の再入室は認めない。</p> <p>その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。</p>					